

11月～12月上旬の農作業

種まき	定植	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・コマツナ</li> <li>・シュンギク</li> <li>・二十日ダイコン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タマネギ</li> <li>・イチゴ</li> </ul> <p>など</p>	<p><b>【アスパラガス茎枯病対策】</b></p> <p>茎枯病は県内のアスパラガス収量低下の大きな要因の一つです。特に露地栽培では、立茎始期から発病助長要因である雨の影響を受けるため、防除対策の技術を中心として、まず茎葉が十分黄化したら地際部から刈取り、罹病残茎は抜き取ります。次いで病原菌の越冬や活性化を防ぐため、畦面の残渣をバーナーで焼却するか茎切口に5cm以上の盛り土を施して降雨による菌の活性化を防ぎます。</p> <p>盛った土を、春の萌芽前にかき落とし、雨よけを設置します。この技術を行うことで茎枯病の菌密度を低減させることができます。</p>
<p>など</p>	<p><b>収穫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハクサイ</li> <li>・ネギ</li> <li>・サトイモ</li> <li>・ダイコン</li> <li>・ニンジン</li> <li>・野沢菜</li> <li>・チンゲンサイ</li> <li>・長芋</li> <li>・ゴボウ</li> </ul> <p>など</p>	



茎枯病（左：養成茎、右：収穫残茎）

収穫後の果樹の管理

果樹は収穫後の管理が重要です。翌年、良質な果実生産を行うために、年内に土づくりや越冬病原菌密度低下など環境整備を行っておく必要があるため、下記項目を参考に作業を行いましょう。

① 土壌の通気や保水性改善のため、樹体より約2m程度離れた所を深耕する。小型バックホーなどを用いて30～50cm程度掘り起し、完熟たい肥や石灰等と混和しながら埋め戻す。

② ①とは別に、右表を参照し11月頃に基肥を施用する。

※ 注)右表を参照する際は樹齢、樹体の大きさ、礼肥及びたい肥由来の窒素量などを考慮して適宜増減する。

③ ブドウべと病が多発したほ場では、翌年以降の越冬菌密度を低めるために、被害落葉をほ場外へ搬出して適切に処分する。

樹種別年間標準施肥量（10年生以上）			
樹種等	施肥量(kg/10a)		
	窒素	リン酸	カリ
りんご	15	5	12
ぶどう	巨峰	8	8
	デラウェア等	14	8
もも	14	6	10

## 地域のお話 ～ネギ<sup>は</sup>播種後の生育不良～

9月上中旬ごろ、「ネギの苗が白くなって全滅してしまった。」との話を聞きました。現場の状況を確認していないため、その原因ははっきりわかりませんが「苗立枯病」という病気が一因として考えられるため、その概要と対策について説明します。これはネギ特有でなく農作物全般に起こり得る病気です。

症状としては、1～2枚葉が出た頃に、苗の地際部が白く軟化して株全体が枯死し、湿度などが高い場合は同部分に綿あめ状の菌糸(カビ)がみられることがあります。地温が20℃前後で多湿条件が加わると発生の危険性が高まります。特に水田転換畑のよう



写真引用：(株)全国農村教育協会

な水はけの悪い土壌では発生しやすくなります。対策としては、①連作を避ける、②苗床の排水性を改善する、③ハウス等施設内育苗では高温多湿にならないよう換気を行う、④苗には予防散布を行う(薬剤は下表を参照)、になりますので、今後の参考にしてください。

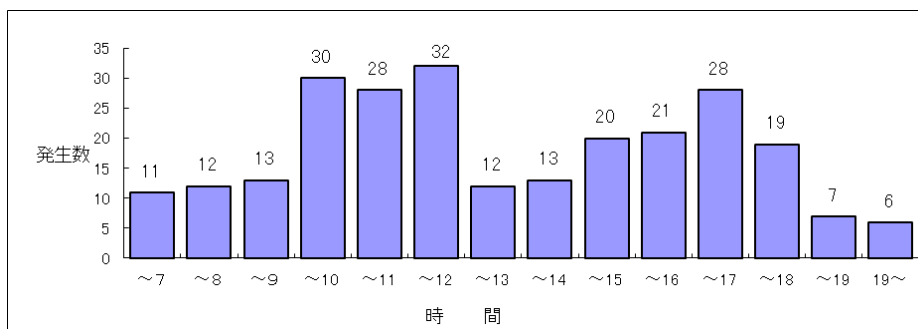
表. 「苗立枯病」に対する主な薬剤の使用基準			※H29年10月25日現在の登録内容(JPPネット)			
薬剤名	作物名	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数	散布液量
オーソサイド水和剤80	たまねぎ	600倍	散布	収穫前日まで	5回以内	100～300ℓ/10a
ダコニール1000	ねぎ	500倍	土壌灌注	出芽揃い後(出芽3日後～10日後まで)	1回	0.5ℓ/㎡
バリダシン液剤5		400倍	灌注	は種時	1回	6 ℓ/㎡

## 農作業安全チェック！

長野県では、昭和46年～平成28年までの農作業事故による死亡者総数が533人で、平均すると毎年11人以上の方が犠牲になっています。昨年の発生件数は18件であり、統計開始以来、過去最多に並ぶ件数でした。

死亡事故は、トラクターやスピードスプレヤーなどの転倒・転落によるものが多く、疲れが出始める昼前や夕方に多く発生しています(下図グラフ)。農業機械を使うときは、始業点検や周囲の安全確認をしっかりと行い、適度に休憩をとって、安全な運転操作を心掛けましょう。

また、野焼きによって下草などを焼いた火が衣服に燃え移り、死亡に至った事故が本年は多く発生しました。一人での作業はなるべく避け、家族や友人同士みんなで声を掛け合って、農作業安全に取り組みましょう。



### あさつゆ連絡先

電話番号：0268-41-1062

FAX：0268-41-1063

### 技術事項作成協力

上田農業改良普及センター(木曽)

電話番号：0268-25-7156(直通) FAX：0268-23-2161